

令和元年度 実施事業の概要

教育事業名: 妙高自然体験活動指導者養成研修(冬)

期間 令和2年1月10日(金)～11日(土)

対象及び参加人数: 大学生 学校教員 その他

目的: ・自然体験活動の指導者として幅広い知識と技術をもち活躍できる人材の育成
 ・妙高のフィールドを生かした自然体験指導者の育成
 ・自然体験指導者としてのスキルアップと資質の向上

事業概要:

上記目的のため、事業を実施した。26名(社会人22名、大学生4名)が参加した。

各講習は、以下のとおりである。

【指導者としての心得】: 藤井 清比古 氏 (NPO 法人妙高山麓自然体験活動指導者会 顧問)

【子供達への接し方と指導の工夫】: 関原 真紀 氏 (上越教育大学 准教授)

【自然体験活動の安全管理】: 瀧 直也 氏 (信州大学 講師)

【アイスブレイク】: 大島 格 氏 (NPO法人妙高山麓自然体験指導者会)

【スノーシューハイク】: 長谷部 恒雄 氏 (NPO法人妙高山麓自然体験指導者会)

【自然体験活動の技術】: 星野 浩一・市川 哲・加藤 貴子 (国立妙高青少年自然の家 職員)

成果:

「妙高自然体験活動の基本」の理論編の講座では、指導知識の基礎を身に付けることができた。特に、「子供達への接し方と指導の工夫」では、特別支援教育を研究している准教授にご講義いただき、特別な配慮を要する子供への声掛けを具体的な事例を基に学ぶことができた。参加者からも、分かりやすかったと好評だった。

また、スノーシューハイクでは、講師や参加者が互いに植物や生き物など、それぞれが得意としていることを伝え合うなど、活発な話し合いの場がもたれたことにより、参加者のスキルアップにつながった。



課題:

荒天時における指導内容や安全管理について、より研修内容を充実していく必要がある。